



外国人材とともに歩み続ける東北圏

— 特定技能1号・2号人材・受入れ企業調査から —

2025年度事業報告会

2026年3月19日（木）15:00～

（公財）東北活性化研究センター 主任研究員 伊藤 孝子

TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

E-mail:itou@kasseiken.jp

いまの暮らしで悲しいこと・嫌だったことはなんですか？

Jauh dari istri dan anak

1. 特定技能制度と育成就労制度の概要

2. 調査のまとめ

- アンケート調査の結果

- 特定技能2号外国人と企業の事例の紹介

3. 調査から見える課題と今後の方向性

1.1 特定技能制度とは

人手不足が深刻化する中小企業において、人材を確保することが困難な分野に限定し、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れるもの

特定技能2号

概要：熟練した技能を要する業務に従事する外国人向け在留資格
在留期間：更新可能
家族帯同：可

対象分野：11分野

ビルクリーニング、工業製品製造業、建設、造船・船用工業、自動車整備、航空、宿泊、農業、漁業、飲食料品製造業、外食業

←企業（登録支援機関）による支援義務なし

↑ 特定技能2号評価試験

特定技能1号

概要：相当程度の知識又は経験を必要とする技能を要する業務に従事する外国人向け在留資格
在留期間：最長5年
家族帯同：不可

対象分野：16分野

介護、ビルクリーニング、工業製品製造業、建設、造船・船用工業、自動車整備、航空、宿泊、農業、漁業、飲食料品製造業、外食業、自動車運送業、鉄道、林業、木材産業

↑
試験ルート

↑
技能実習ルート



受入れ企業による人材への“労働支援”と“生活支援”が義務化
支援は“登録支援機関”に委託が可能

1.2 新・育成就労制度で高まる特定技能の重要性

2027年4月開始の育成就労制度の目的は「人材育成」と「人材確保」。
原則3年間の就労を通じて特定技能1号水準の技能を有する人材を育成



技能実習制度（創設1993年）	▶▶▶	育成就労制度
国際貢献、 人材育成	目的	人材育成、 人材確保
最長5年	在留期間	原則3年
90職種165作業	対象業種・分野	17分野（特定技能と原則一致）
原則不可	転籍・転職	一定条件下で可能

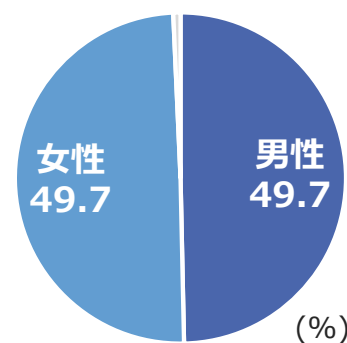
2 調査概要

特定技能1号外国人アンケート

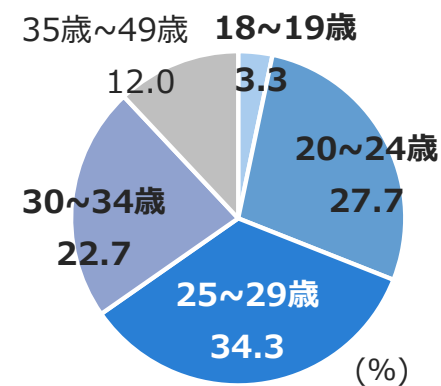
対 象	東北圏で働く特定技能1号外国人
手 法	オンライン・紙
期 間	2025/7/7～10/10
回 答 数	301 件
内 容	働き方・暮らし・日本語・定着意向など

【性別】

その他/答えたくない 0.7



【年齢】

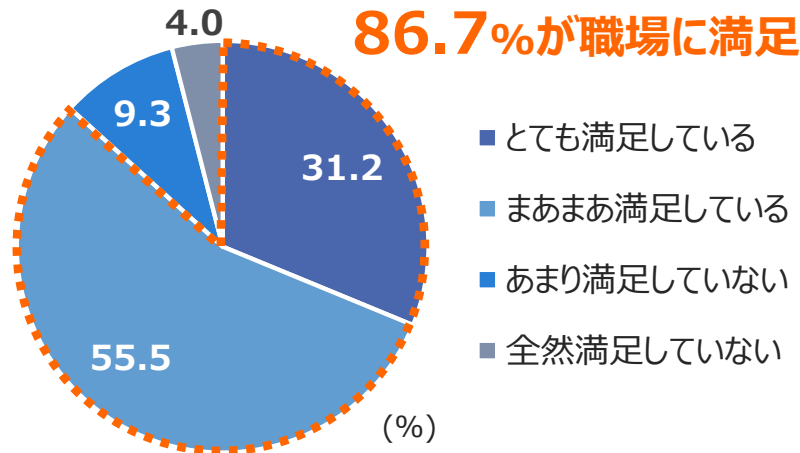


特定技能2号外国人・受入れ企業インタビュー

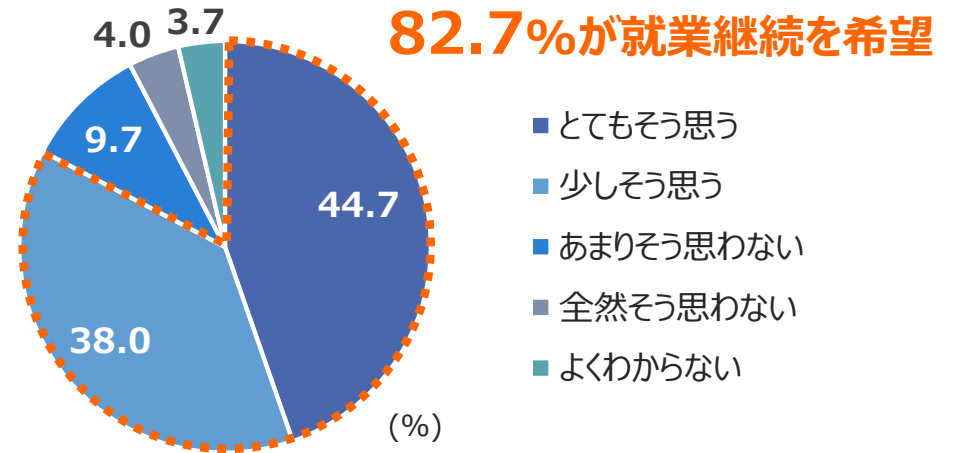
対 象	東北圏で働く特定技能2号外国人 8 名、その受入れ企業 7 社
手 法	対面またはオンライン
期 間	2025/10/22～12/16
内 容	企業での活躍、支援、地域での暮らし

3.1 特定技能1号外国人の姿（職場）

【職場に満足しているか？】



【同じ職場に勤め続けたいか？】



【職場で満足している点・満足していない点はナニ？】

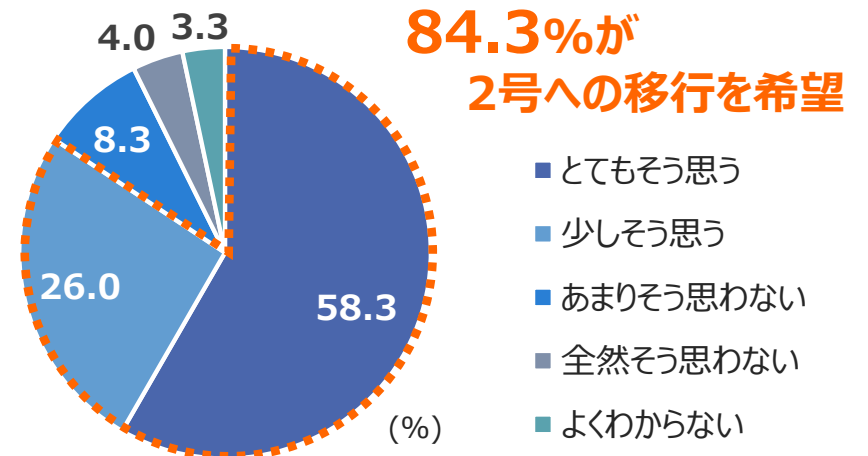
満足な点

- 一緒に働く人たちと仲良くできる
- 今の仕事が自分にあっている
- 日本語が上手になれる
- 頑張ったことがわかってもらえる

不満足な点

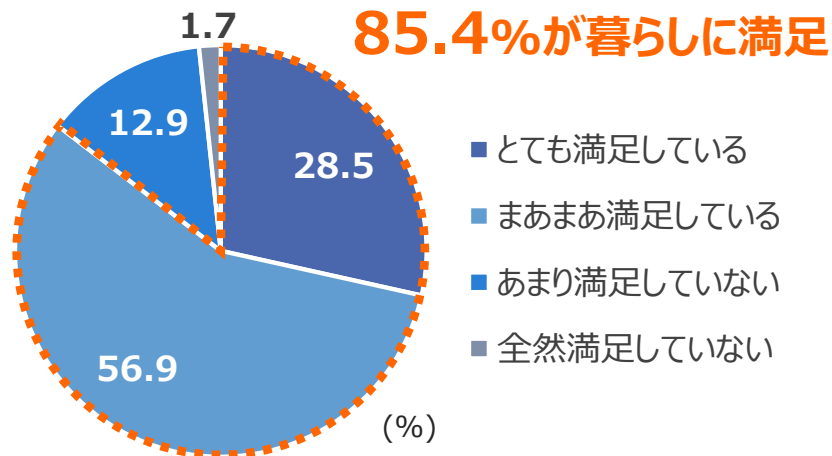
- 給料が低い
- 日本語がなかなか上手にならない
- 仕事の次の目標がわからない

【特定技能2号になりたいか？】

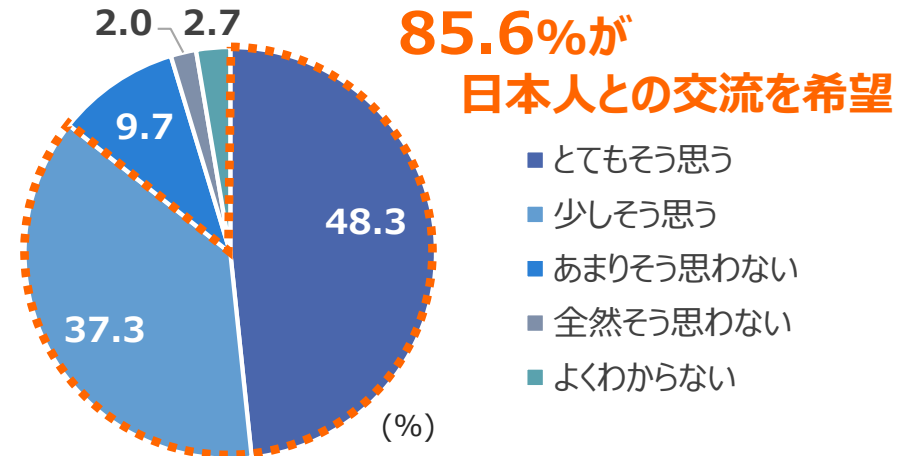


3.2 特定技能1号外国人の姿（地域）

【今の暮らしに満足しているか？】



【地域の日本人と仲良くしたいか？】



【暮らしで満足している点・満足していない点はナニ？】

満足な点



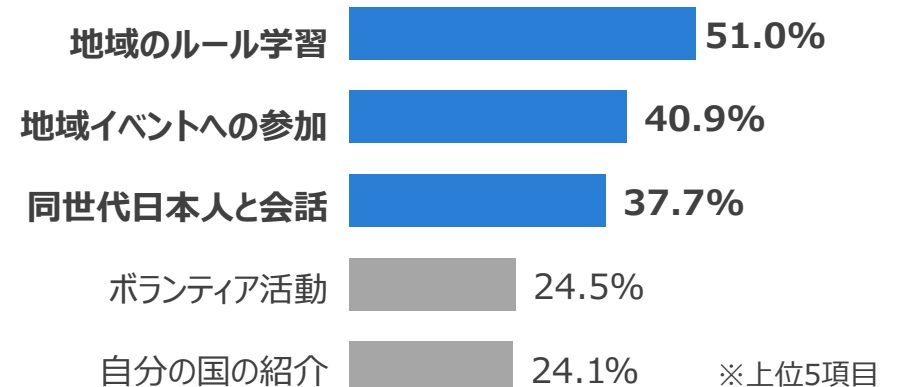
- 日本の食べ物がおいしい
- 住まいの環境がよい
- 日本の生活の仕方があう

不満足な点



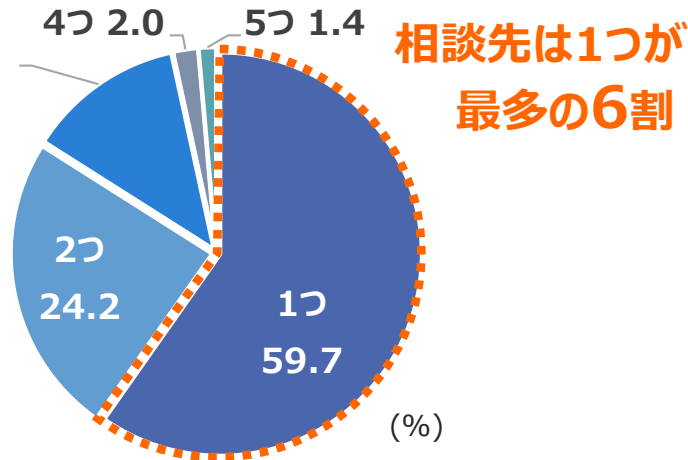
- 物の値段が高い
- 病院に安心していけない
- 遊ぶ場所や、リラックスできる場所がない
- 地域のお知らせや看板が日本語でしか書いていない

【仲良くなるためにしたいことは？】

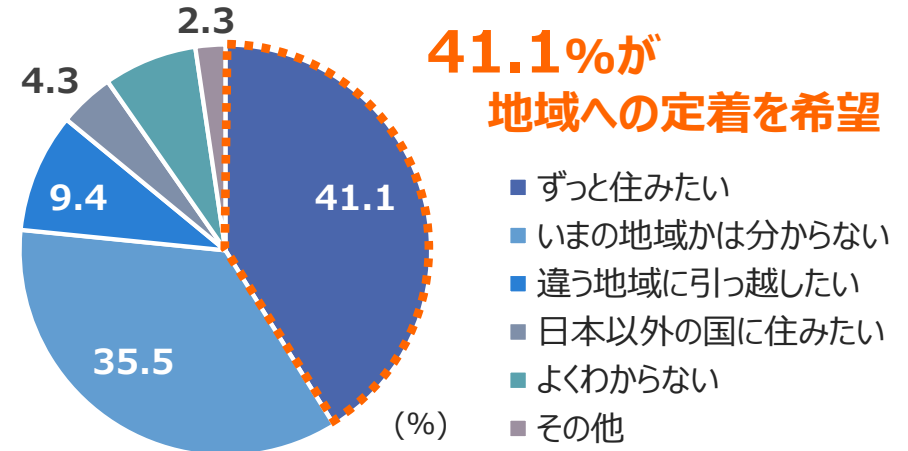


3.3 特定技能1号外国人の姿（相談相手・将来展望）

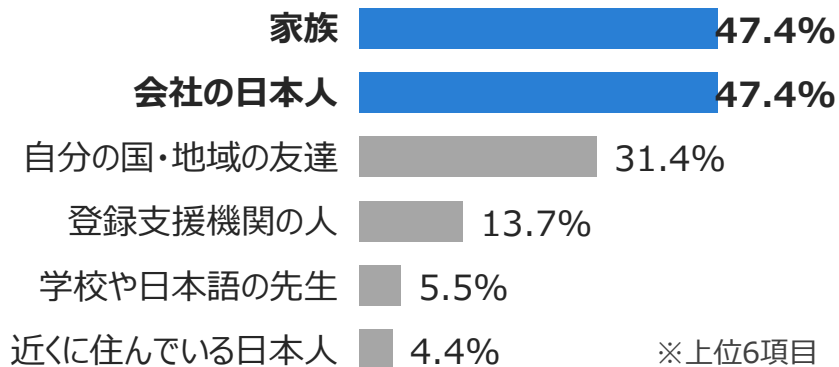
【仕事や生活で困ったときの相談先の数は？】



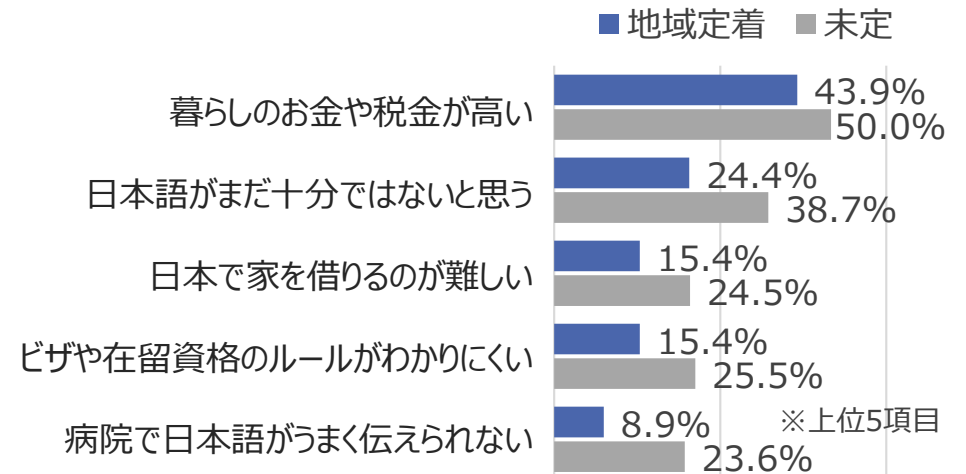
【地域に住み続けたいか？】



【仕事や生活で困ったときに相談する人は？】



【地域に住み続けたいと思った時に不安なことは？】



4.1 特定技能2号外国人と企業の取組み

東北圏で働く外国人材の歩みを、報告書では一人ひとりの物語として紹介している。

No.	対 象 者	特定産業分野	地域
1	26歳インドネシア人女性（出産のため帰国） 「介護福祉士への挑戦を終え、家族とともに日本での未来を願う」	介護	宮城
2	36歳ベトナム人男性 「家族との未来を見据え、秋田で努力を重ねる」	工業製品製造業	秋田
3	41歳中国人男性 「母国の家族を支えるため、慣れ親しんだ職場で働き続ける」	建設	新潟
4	29歳ベトナム人男性 「職場で愛され、家族とともに気仙沼での暮らしを始める」	造船・船用工業	宮城
5	30歳インド人男性 「職場の仲間を支えながら、新たに妻と子の暮らしも力強く支える」	自動車整備	岩手
6	37歳ミャンマー人男性・35歳ミャンマー人女性（夫婦） 「夫婦で挑戦し、静かな北上市で子どもとの未来を描く」	飲食料品製造業	岩手
7	27歳ベトナム人男性 「信頼を重ねて仕事に励み、白鷹町での未来の家族との暮らしを描く」	飲食料品製造業	山形

4.2 職場で愛され、家族とともに気仙沼での暮らしを始める



ルアン・スアン・ホアンさん（29歳男性/ベトナム出身）

宮城県気仙沼市・石川電装で電気機装を担当

略歴：2016年来日、技能実習→2019年特定技能1号→2025年2号へ
2022年に恋人だった妻を宮城県に呼び寄せ、2023年に結婚
2026年に第一子誕生予定

来日の経緯

- 海外就労を検討した際に、**円高だった日本**を選択
- 電気に興味があり、船の設備に惹かれて溶接実習を開始

仕事の様子

- 実習時代は日本語がわからず苦勞した
- 今は慣れて、**掃除でも何でも楽しく、夢に見るほど**
- 今後の目標は会社の**全業務習得**

2号評価試験への挑戦

- 都市部への転職も考えたが、**会社は第二の家族**。継続を選択。
- **広島で1カ月半の研修**を受け、試験に合格

将来展望

- 気仙沼でのこれからの暮らしは、“はじめて”だらけ
- **妻と子のために**、仕事と家庭の時間を調整しながら頑張りたい

4.3 ホアンさんの定着を支える石川電装の取り組み



石川電装株式会社

設立：1953年

業務内容：漁船の新造・修理時の電気設備設計・施工・保守業務。
また、ペレットストーブを活用した環境事業も展開

従業員数：22名うち外国人材2名（2025年11月時点）

受入れの背景

- ・ 震災特需による人手不足を背景に、2016年にホアンさん他1名を受入れ

支援内容

- ・ ホアンさんは会社に不可欠な存在のため、2号取得を強く推奨
- ・ 2号輩出実績のある**広島県の因島鉄工(株)に支援を依頼**。往復交通費および生活費（一部）を**会社で負担**
- ・ 新年会や忘年会、多文化交流イベント、高校での講演など**地域イベント参加を促進**
- ・ **身重の奥さんの移住に向け**、住まい、出産・育児環境を支える準備に着手

成果・課題

- ・ **職場の雰囲気**が改善し、**多様性を受け入れる風土**が醸成された
- ・ 一方で、課題はさらなる**キャリアアップ機会の提供**、**外国人材と行政・地域をつなぐ仕組み**

4.4 インタビュー調査の整理・考察

特定技能2号外国人8名インタビュー



東北圏で働く理由

- 東北圏での就労継続は、生活環境や職場への愛着と結びついた選択
- 地方で働き続けることに、安心感や納得感を見出す

地域とのつながり

- 「関わりたい」という意欲がある一方で、接点が乏しい
- 地域に溶け込みたいという思いと、きっかけの不足との間にギャップが存在

将来に関する不安

- 家族帯同を契機に、不安が生活全般へと一気に拡大
- 生活基盤に関する見通しが立たないことが、将来への迷いや不安につながっている

受入れ企業7社インタビュー



暮らしのサポート

- 制度上の必須事項を超えて、企業が個別に対応している実態がある
- 家族形成期には支援ニーズが急増し、企業がその負担の大きさを課題として捉える声もある

受入れの成果

- 人手不足対策にとどまらず、職場や地域に前向きな変化が生まれている
- 外国人材の存在を契機に、職場のあり方そのものが変化しつつある

5.1 就労継続意向と地域定着意向のねじれの背景と考察

この差はどこから？ 就業継続意向 **82.7%** > 地域定着意向 **41.1%**

【現在の支援構造】



単身期

生活基盤ニーズの拡大

地域側の受け皿不足

生活の不安定化



家族形成期

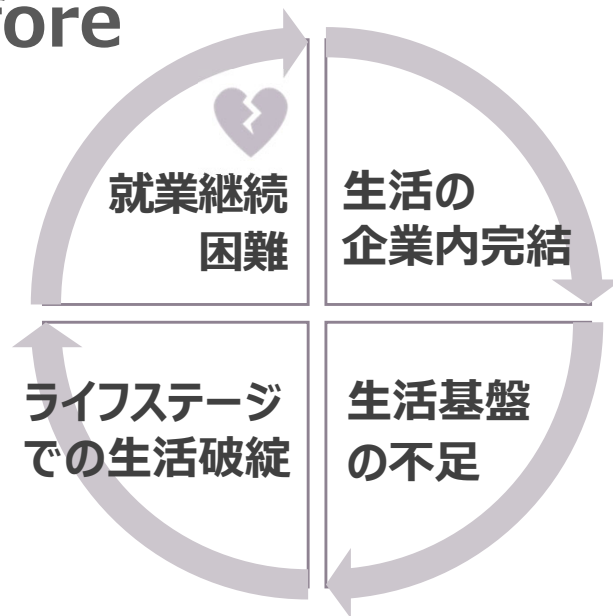
【ライフステージの進行】

生活基盤の弱さが、地域定着を阻害する可能性あり

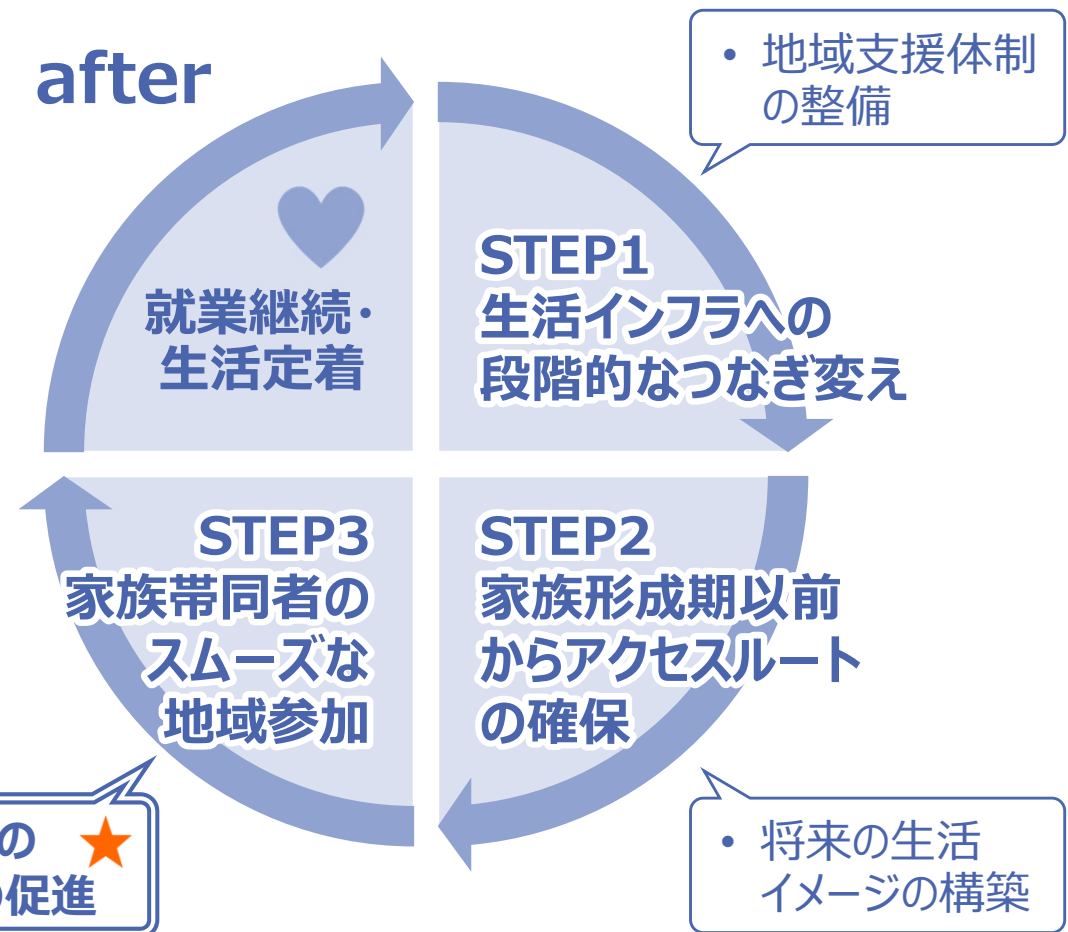
5.2 今後の方向性：就労継続を支える地域生活基盤へ

就労継続と生活定着の両立の鍵は、生活基盤を地域全体で支える仕組みへの転換

before



after





外国人材とともに歩み続ける東北圏

特定技能1号300人調査と2号人材・企業の声から読み解く
就業継続と生活定着に向けた課題と可能性

報告書PDFはコチラから

<https://www.kasseiken.jp/kassecms/wp-content/uploads/2026/03/2025fy-01-00.pdf>



調査報告書
2026年3月
刊行



公益財団法人
東北活性化研究センター
<https://www.kasseiken.jp/>